

国際メンタリングワークショップ° Joshikai in Fukushima 2023 結果概要

2023年12月

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

開催概要

- 日程
ワークショップ：7月29日（土）、30日（日）
1F視察（希望者）：31日（月）
- 場所
富岡文化交流センター「学びの森」
（福島県双葉郡富岡町）
- 参加者
福島県内の女子高校生（22名）
福島県外の女子高校生（15名）
海外女子生徒（ルーマニア 9名）
- 共催 経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）
- 後援 福島県教育委員会
- 協力 日本原子力研究開発機構
量子科学技術研究開発機構
産業技術総合研究所
東京工業大学
福島大学



プログラム

テーマ：理工系分野での私の未来を考える

◆ Day1

主催者挨拶(ビデオメッセージ、基調講演)

メンター講演

福島レクチャー

グループディスカッション 1

ポスターセッション

グループディスカッション 2 (並行して先生セッション)

まとめ

レセプション

◆ Day2

特別講演

プレゼン準備 (並行して先生セッション)

プレゼンテーション

ラウンドテーブルミーティング

富岡アーカイブミュージアム視察 (希望者のみ)

◆ Day3

福島第一原子力発電所視察 (希望者のみ)



国内外共同議長 & メンター



国内共同議長
室伏きみ子
お茶の水女子大学前学長・名誉教授
ビューティ&ウェルネス専門職大学学長



国内共同議長代理
渡辺美代子
日本大学 常務理事



佐々木成江
お茶の水女子大学 特任教授



上條由紀子
九州工業大学 特任教授



府中ひかる
東京電力パワーグリッド株式会社



海外共同議長
アリシア・ダンカン
米国エネルギー省国際原子力政策協力副次官補



ニーナ・クロミニエル
スウェーデン放射線安全局長官



ダイナ・ニクラエ
ルーマニア国立ホリア・フクバイ
国立物理学・原子核工学研究所



ディアンヌ・キャメロン
OECD/NEA原子力技術開発経済課長

アジェンダ (Day 1)

■挨拶（主催者、共催者、来賓）

NDF、OECD/NEAより本プログラム開催の意義を含め挨拶を行いました。また開催地である富岡町の町長にお越しいただき、ご挨拶いただきました。

■基調講演（各15分）

国内外の議長より自己紹介を含め、これまでのキャリアそして女性が理工系で活躍することの重要性など基調講演をいただきました。

■メンター講演（各10分）

現在の仕事内容、これまでのキャリア、家族のこと、趣味など自己紹介を交えながらの講演を実施。これまでのキャリアで悩んだことや分岐点での決断、家族のサポート内容などを共有していただきました。

■福島レクチャー（10分）

経済産業省職員による、事故当時の様子や福島復興の取組、廃炉に関するレクチャーを行っていただき、廃炉に関する理解を深めました。

■グループディスカッション（90分）

生徒を8グループに分け、それぞれにメンター1名を配置し、メンターを中心にディスカッションを進めました。メンターに対しての質問（なぜ理工系に進んだかなど）や自身の悩みなどをグループで共有しました。

■レセプション（90分）

交流を兼ねて、レセプションを行いメンターや他校からの参加者、ルーマニアの生徒とコミュニケーションを図りました。また参加者一人一人に参加証を授与しました。



アジェンダ (Day 2)

■ 特別講演 (15分)

福島国際研究教育機関 (F-REI) 山崎理事長をお迎えして、「未来のリーダーとなるために」というタイトルで、大学で何をすべきか、未来のリーダーになるために今から身につけるべきことを講演していただきました。



■ ポスターセッション (90分)

7つの機関や大学から9名の研究者が参加しポスターセッションを実施しました。将来の選択肢の幅を広げることを目的に、様々な分野の若手女性研究者を集まっていただき、研究発表だけでなく、現在のライフスタイルや進路時に悩んだことなども共有いたしました。



参加機関	東工大、東北大、福島大、JAEA、QST、AIST、NEDO
テーマ例	絵具や化粧品に使われているナノ材料を用いた汚染物質回収 革新的「見える」がん治療薬開発による難治性がん克服への挑戦 加速器と原子炉で高レベル放射性廃棄物の有害度低減を目指す 病気の仕組みを解明し植物の病気を防ぐ



■ グループディスカッション (90分) & プレゼン準備 (100分)

Day1とは異なるメンターを配置し、ディスカッションを実施。プレゼン準備ではこの2日間で学んだことを発表するための準備時間を設け、各グループで作業を行いました。



■ 引率先生向けセッション

「なぜ理系に女性が少ないのか」(2022年)の著者である東京大学の横山広美教授に講演いただき、女子高校生が理工系に進むためにどのようなサポートが学校としてできるか、その障害になっていることは何かを引率教諭とともにディスカッションしました。

アジェンダ (Day 2、3)

■プレゼンテーション (Day 2)

本プログラムを通じて学んだことをそれぞれグループ毎に発表。英語でプレゼンをするグループ、自分たちで台本を書き寸劇で学びを表現するなど、それぞれ独自の個性がありました。福島県教育委員会教育長に同席いただき、最後に講評いただきました。

- 発表内容
- ・将来の夢を叶えるために必要なこと
 - ・メンターから学んだこと
 - ・男女の違い など



■ラウンドテーブルミーティング (Day 2)

NDF山名理事長、OECD/NEAマグウッド事務局長よりそれぞれのキャリアや経験談を共有いただきました。また参加者よりこのメンタリングワークショップに参加しての感想や学んだこと、進路に関して不安なことなどを述べ、それに対して山名理事長、マグウッド事務局長そしてメンターから感想を述べられ、国際メンタリングワークショップの総括を行いました。



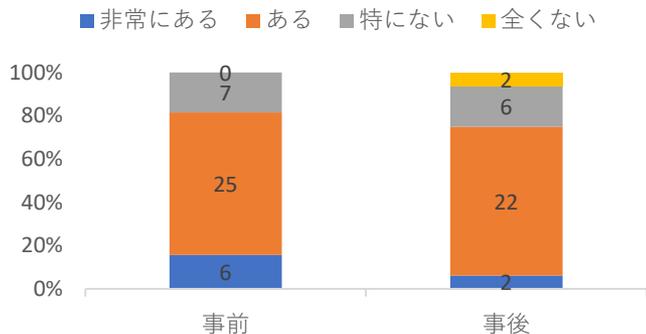
■1F視察 (Day 3)

希望者のみを対象に福島第一原子力発電所の視察を実施。32名の生徒、5名の引率教諭、海外メンターなど総勢50名が視察を行いました。視察後には質疑応答が行われました。



事前・事後効果測定アンケート

進路に関して不安が



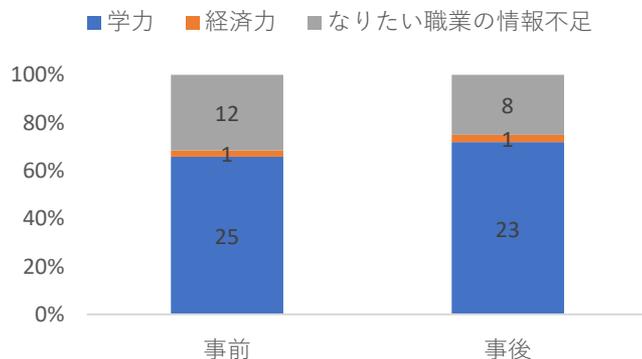
事前・事後効果測定アンケート

※集計数に違いあり

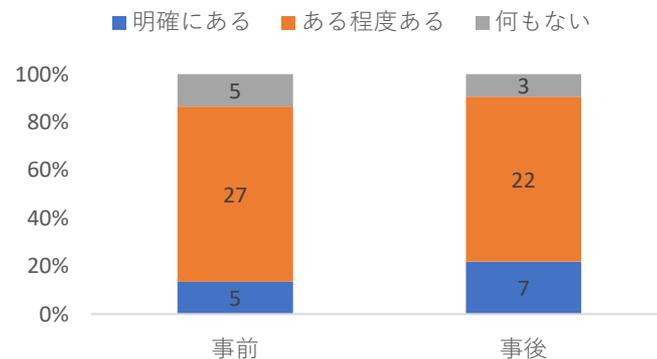
事前サンプル数：38

事後サンプル数：32

進路に関して不安な原因は



将来の夢が



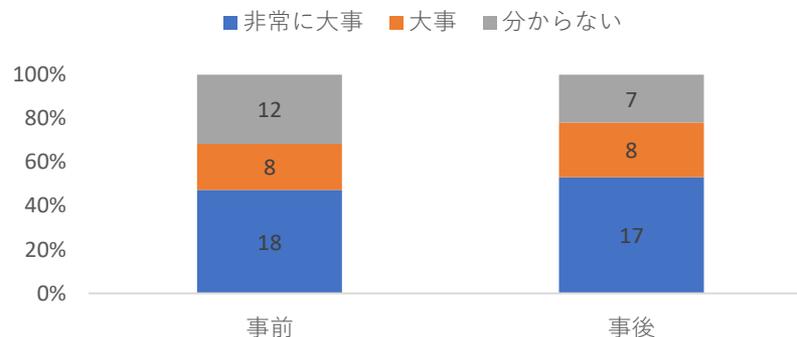
事前・事後効果測定アンケート

【理系科目について】

理系教科が



自身の将来に理系科目は



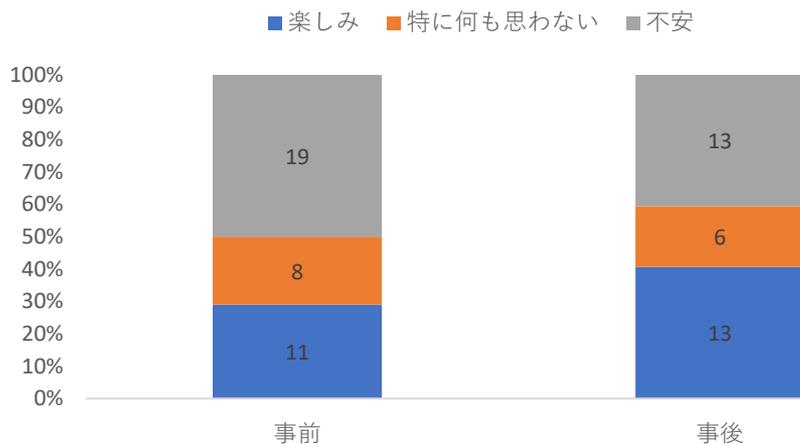
女性専門家がいるネットワークへの参加に



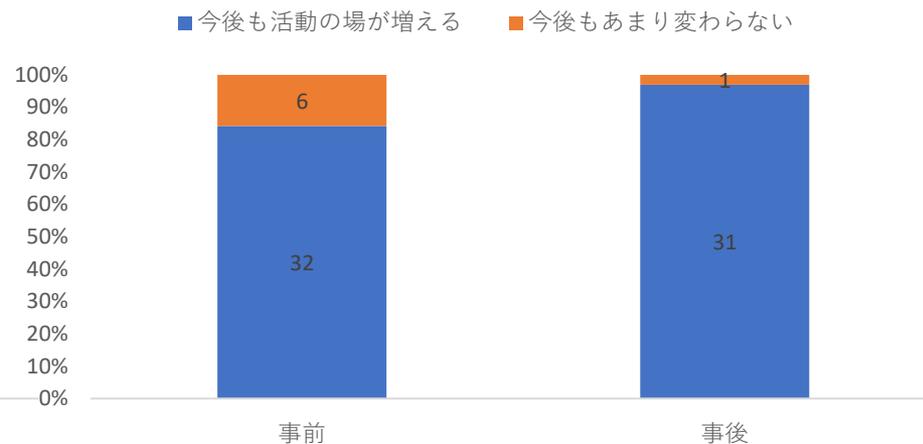
事前・事後効果測定アンケート

【女性と社会】

社会人になることが



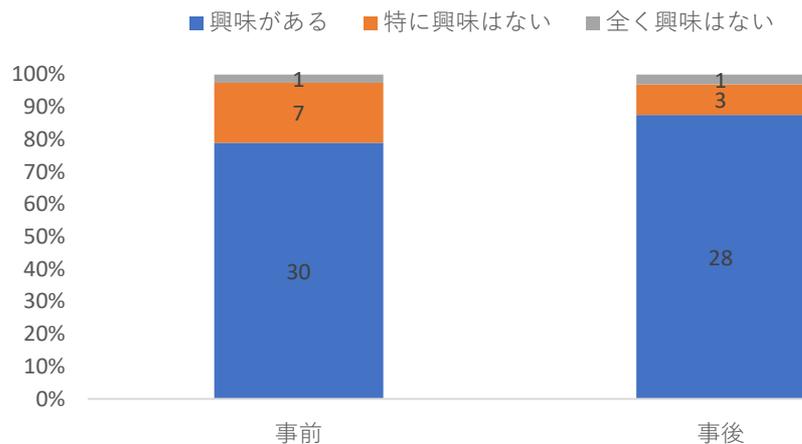
女性の社会進出は



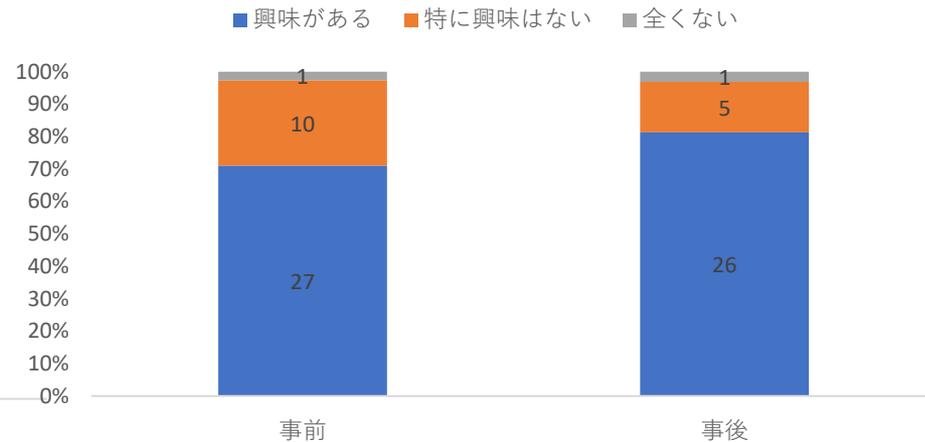
事前・事後効果測定アンケート

【海外とのつながり】

海外留学に



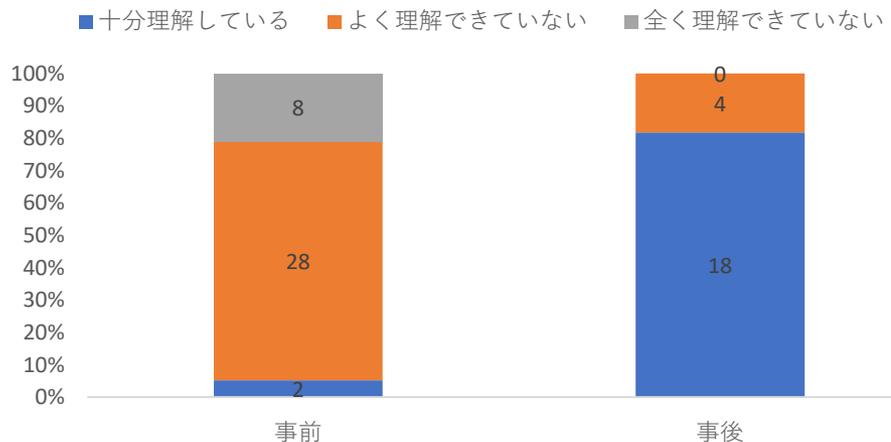
海外で働くことに



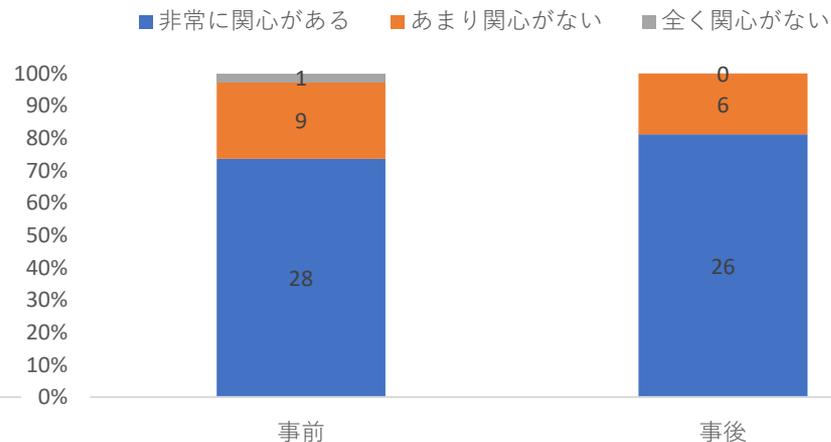
事前・事後効果測定アンケート

【廃炉および福島復興について】

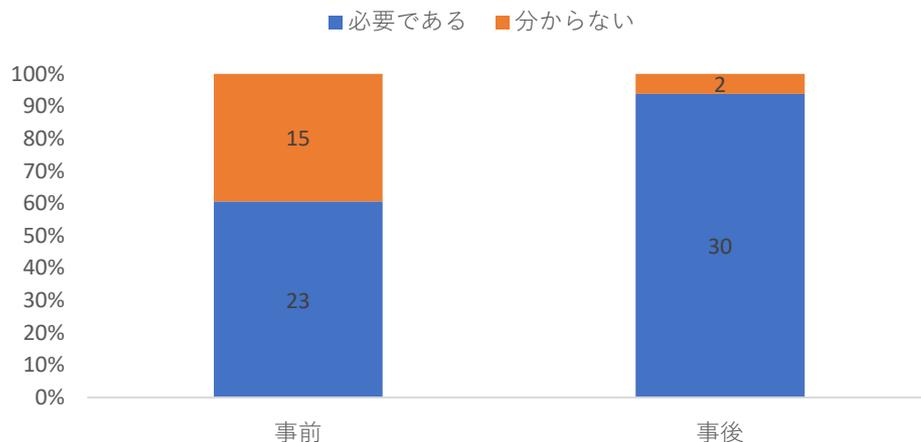
1 F廃炉に関して



福島の復興に関して



1 F廃炉はじめ福島復興に海外の知見が



感想レポート

【自身の成長】

- 国際的な交流の場に参加することによって自分の視野が広がった
- 少し遠回りをして、やりたいことが実現できると前向きに感じる事ができた
- 学校では学べないことを学び、知識や考えを深めることができた
- 自分こそが変革の主導者であるという自覚をもって、自ら行動を起こしていこうと思う
- 恥ずかしがらない、恐れないことの大切さを学んだ

【メンターについて】

- 豊富な経験からたくさんのアドバイスをいただき未来を決定するための勇気になった
- 薬剤師になりたいので、佐々木先生のジェンダーイノベーションの話が印象に残っている
- 親の希望に沿って仕事につくのは仕方がないと思っていたが、メンターが所属や学部を簡単に変えているのに驚き、いい発見となった
- メンターの話聞き、今自分の将来が分からないことは当たり前と分かり安心した
- 女性の溢れんばかりの可能性を感じ、なぜかとても嬉しかった

【廃炉について】

- 廃炉や復興を進めるために様々な分野の技術者や科学者が日々新しい技術の開発をしていることを知ることができた
- 1F視察は貴重で、自身の目で見ることによって震災の脅威を実感した
- 震災後の福島に行ったことがなかったので、日本人として知っておくべきことをこの機会に詳しく知ることができよかった
- 処理水のことなど、今ニュースになっているからどうなっているのかこれからも追いかけてたい
- 廃炉は世代を超えて引き継いでいくべき問題なのでこれからも学んでいきたい
- 現場は想像以上に生々しく、事故のことが目に浮かんだ。現在処理水のニュースをよく目にするが、見学に行って現状を学んだ私達がより多くの人に安全性を伝えていく必要があると感じた
- 知らないがゆえの風評被害がたくさんあることを知り、判断する前に正しい情報を集めなければいけないことを痛感した

感想レポート

【国際関係】

- ルーマニアの文化や考え方を少し知ることができた
- ルーマニアの生徒とコミュニケーションがとれ、非日常を味わえた
- 英語の重要性を感じた
- 海外の大学に進学することへの興味を持つようになった
- 自分で英語を話してコミュニケーションをとることができ、英語力に少し自信がついた
- 海外留学を考えていたが、周りに経験者がいなかったので、今回すごく参考になった
- ルーマニアの生徒は1つしか年齢が変わらないのに、大人っぽく、会話の内容も自分の思考をきっちり伝えていたので、世界のレベルが高いことを実感した

【進路について】

- 自分を卑下する必要はなく、焦らず・・・将来への不安を取り除くことができた
- 理系分野での活躍も視野に入れつつ、文理選択に役立てたいと思った

【グループディスカッション】

- 他校の生徒と作業をすることによっていろんな考え方があることを知った
- 多くの人の将来の夢や考え方を聞くことができ、楽しかったし自分の進路の参考になった

【ポスターセッション】

- テーマ1つ1つが魅力的だった
- 研究発表を聞き、特に医療の研究は奥深く、きっかけがあれば自身も挑戦したいと感じた
- 生き生きと研究発表をする研究者の姿を見て、自分も研究職に就きたいという思いが一層強くなった

7月30日(日) 福島民報(2)

理工系の進学など探る 高岡

NDF 女子高校生対象ワークショップ



原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)が主催するワークショップ「Joshikai In Fukushima In Pu Kusshima 2023」は29、30の両日、富岡町文化交流センター「学びの森」で開かれ、全国から集まった女子高校生が理工系への進学や就職などに意見を交わしている。

29日は国内外の女性研究者も人が自身の研究内容を講演した。このうち、経済産業省資源エネルギー庁原子力発電所事故対策

の共催。理工系分野での女性の活躍を促進するため、本県を中心とする全国の女子高生を対象とした「女子会」として開催した。全国からの38人と、ルーマニアの9人の計47人が参加した。

理工系への進学や就職などの将来像について話し合う参加者

応募の飯塚千亜希委員長補佐は「福島レクチャー」と題して東京電力福島第1原発の廃炉作業の現状などを説明し、原発事故からの復興に向けた本県の取り組みを紹介した。講演を聴いた参加者は自身の将来像をテーマに、女性研究者とともにディスカッションを繰り返し、30日はグループごとにディスカッションの内容を発表する。

7月30日(日) 福島民友(2)

富岡で「原子力女子会」

フラッシュ

原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)の体験型講座「Joshikai(女子会) In Fukushima 2023」が29日、富岡町の文化交流センター「学びの森」で始まった。理工系の進路を考えている女子高校生を支援する取り組みで、高校生が国内外の女性研究者らとキャリア形成などについて意見を交わした=写真。

県内から24人、全国から14人、ルーマニアから9人の計47人の高校生が参加した。初日はNDFの山名元(はじむ)理事長が「多くの若者が理工系にチャレンジし、新しい技術をつくり出してほしい。福島の地を訪れたことがヒントになれば」とあいさつした。地元を代表して山本育男町長が歓迎の言葉を述べた。講座では東京電力福島第1原発の廃炉の現状についての解説も行われた。30日は成果発表などが行われ、31日には希望者が第1原発を視察する。

東北メディカル・メガバンク機構HP

10:27 3.08.16 ユース |

石黒講師が国際メンタリングワークショップ Joshikai in Fukushima 2023 に参加

石黒真美講師が、国際メンタリングワークショップ Joshikai in Fukushima 2023 のポスターセッションに参加しました。

Joshikai in Fukushima 2023 は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構が主催する、第7回福島第一廃炉国際フォーラムのワークショップのひとつとして、2023年7月29日(土)と30日(日)に富岡文化交流センター「学びの森」(福島県双葉郡富岡町)で実施されました。理工系人材のジェンダーバランスの改善を図るため、女子高校生を対象に、国内外の女性研究者・技術者等との交流を通じて理工系への進路選択の後押しを行うものです。

石黒真美講師は、ToMMoでの研究の内容を発表したほか、将来の進路を具体的に検討する時期にある女子高校生のみなさんに、現在の仕事に就いた経緯や経験を話しました。参加したみなさんは今回の交流を通じて、科学への興味、関連する社会課題

10:27 ユース |

に、国内外の女性研究者・技術者等との交流を通じて理工系への進路選択の後押しを行うものです。

石黒真美講師は、ToMMoでの研究の内容を発表したほか、将来の進路を具体的に検討する時期にある女子高校生のみなさんに、現在の仕事に就いた経緯や経験を話しました。参加したみなさんは今回の交流を通じて、科学への興味、関連する社会課題への関心を高めたようでした。参加者の一人は「まだなりたい職業が見つからないけど、今はまだそれでも良いんだと思います」と話していました。



ワークショップの様子。中央で話しているのが石黒真美講師

いいね! 0 ツイート

III O < III O <